

平成25年2月1日

豊田市議会議長 梅村 憲夫様

都市活力向上特別委員会

委員長 太田 博康



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

- 1 日 程 平成24年11月6日(火)～11月8日(木)
- 2 派遣先 6日(火)…青森県八戸市
及び内容 /山の楽校(青葉湖展望交流施設)
はちのへ青年倶楽部カダリスタ
南郷サマージャズフェスティバル
7日(水)…NPO法人岩手子ども環境研究所(葛巻町)
/森と風のがっこう
岩手県葛巻町
/クリーンエネルギーへの取組
8日(木)…秋田県鹿角市
/スポーツ合宿奨励補助事業
伝説の里かづの体感泊覧会
森林セラピー
- 3 派遣委員 委員長 太田 博康
副委員長 牛田 朝見
委 員 加茂みきお 八木 哲也 山内 健二
岡田 耕一 佐藤 恵子 日恵野雅俊
吉野 博子 山田 主成 原田 勇司
- 4 報告書 視察報告書のとおり
- 5 その他 随行 主幹:近藤 卓也、主査:犬塚 友美

視察報告書【1】

| | | | |
|-----------|---|-----|-------|
| 委員会名 | 都市活力向上特別委員会 | 委員名 | 太田 博康 |
| 視察日時 | 平成24年11月6日(火) 午後2時30分 ~ 午後4時30分 | | |
| 視察先・概要 | 青森県八戸市 人口：約240,000人 | | |
| 視察内容 | <ul style="list-style-type: none"> 山の楽校(青葉湖展望交流施設)について はちのへ青年倶楽部カダリスタについて 南郷サマー jazz フェスティバルについて | | |
| 選定理由 | <p>山の楽校は、廃校となった小中学校を利用して体験交流施設として整備し、地元の人たちがアイデアを出し合って田舎暮らしの体験メニューの充実を図っており、多くの人々が「心のふれあい」を求めて来校している。</p> <p>はちのへ青年倶楽部カダリスタは、八戸圏域8市町村の青年が地域を越えた仲間を作り、楽しく交流を深めながら地域のことを知り、お互いの考えを語り合う場として立ち上げられた。</p> <p>南郷 jazz フェスティバルは、合併前の南郷村で「過疎で元気のない村に活気を呼ぶ音をたてよう」を合言葉に、村のすばらしさを内外に広め、交流人口の増加を図るなどを目的に開催が始まった。</p> <p>過疎化が進む山里を抱える本市には、活性化を図る上でいずれも参考になる事例として選定した。</p> | | |
| 豊田市の現状と課題 | <p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し広大な面積を有する都市となったが、同時に過疎化が進む地域を多く抱え、都市活力の向上を図る上ではこの山里の活性化が早急に取り組むべき課題となっている。本特別委員会は、その一方策として、「山里とまちの交流促進による地産地消」の推進を図る施策の検討を進めている。まちの人が、山里の人と交流し絆を深めながら山里の様々な資源にふれ、理解を深めて利活用する仕組みの構築に取り組む。</p> | | |
| 視察概要 | <ul style="list-style-type: none"> 山の楽校 ダム建設により水没した地区の廃校となった増田小中学校を利用した体験交流施設であり、同地区において育んできた歴史と自然を後世に伝えると共に、地域の活性化を図るために地域住民と都市に住む人たちの交流促進の場として設置されたもの。 設立の経緯及び活動・利用状況等 はちのへ青年倶楽部カダリスタ 八戸圏域定住自立圏8市町村に在住・通勤・通学している15～39歳の若者により地域を超えた仲間づくり、楽しく交流を深めながら、地域のことを知り、お互いの考えを語り合う「場」を目的として立ち上げた。 カダリスタとは、参加して語る(「語る」×「かだる(参加する)+~ista(～な人)」)を意味する。 事業概要と成果 南郷サマー jazz フェスティバル 旧南郷村で「jazz フェスティバル」を開催することになった理由は、暗いイメージ、誇れるものがなかったとのことから、若者グループ「輪芸者」がハンガリー青年民族舞踊団「ティサ」の公演を成功させ、また jazz 好きであった当時の村長の提案により実現し、平成2年に「第1回オータム jazz フェスティバル」として開催された。 事業目的及び事業概要と成果 | | |

| | |
|-------------------------------|--|
| <p>評価と その理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> 山の楽校 そば打ち体験や布編みスリッパの講座で確実に受講数が伸びており、成果を挙げていると共に、リピーターからサポーターへと変わってきているところが評価できる。 また、講座メニューの入れ替わりを含め、内容の充実を図っている事、交流・ふれあいを求めて参加する方など利用者数が増えている事は、運営協議会が活発に機能していると思われ評価できる。 はちのへ青年倶楽部カダリスタ 青年交流の場づくりとして、メンバーの自主性を重んじた取組が人づくりとしても評価できる。 地域の魅力の再発見につながる。 次世代を担う青年の圏域内での交流は将来の人的ネットワークとして有意義である。 行政主導とはいえ継続的に各種事業を行い一定の効果を上げていることを評価したい。 南郷サマージャズフェスティバル 本市と比較すると行政の負担金を半分で済ませており、さらに自主財源を考えていることが評価できる。 特定のジャズファン向けの催しとなっているが、市内外から2,000名の入場者があり、地区の名物イベントと定着している。 |
| <p>本市に反映 できること</p> | <ul style="list-style-type: none"> 山の楽校 廃校の活用策としての参考事例として市民の学習体験やそば打ち体験などの趣味の講座などの活用は、本市でも取込める可能性があると考えられる。 はちのへ青年倶楽部カダリスタ 青少年センターの取組として反映できるのではないかとと思われる。 旧市町村間の青少年人材ネットワークを構築する事も必要ではないか。 南郷サマージャズフェスティバル 事業継続の大切さ。 近隣では岡崎市がジャズでの事業を行っており同様なジャズによる開催は難しいが、自主的に音楽イベントを行っている団体もあり可能性もあるのではないか。 伝統を作り上げて名物にする手法を学ぶことができる。 |
| <p>その他 (意見・課題 など)</p> | <ul style="list-style-type: none"> 山の楽校 地域住民が積極的に参加されている事を高く評価したい。 指定管理料と施設の継続性を考えると経費の削減の工夫が今後の課題。 年間を通して切れ目のない事業展開を今後どの様にするかが課題。 本市においてどの様な資源があるのかを調査研究する必要がある。 元学校長が代表者として取組が行われてるが、この様なやる気に満ちた人の存在が重要であり、この熱意が周りの人も動かす事ができる。 はちのへ青年倶楽部カダリスタ 連合との話し合いを受け、市長の意思により始められた事業であり、主催者が公的機関である事は参加者に安心感を与えるが、市費負担の削減に向けて実行委員会組織の立上げが必要であるように感じた。 |

青年交流の場であると共に出会いの場でもあり、この様なところから地域の活性化へつながれば良い。

- ・ 南郷サマージャズフェスティバル

収支について平成23年度と平成24年度の見込みで比較すると、チケット販売枚数が約20%減となっており、開催回数を重ねるとマンネリ感が出てきているのではないかと感じるが、雑入で約40%増となっている点を評価する。

- ・ 全体

視察した3つの事業の取組のどれもが当事者の方たちの主体性や事業継続に向けた熱意を強く感じ見習うべきである。

補助金をあてる事業ではなく、行政と市民が半々に予算をもち互いに知恵と汗を流す必要があるのではないか。

八戸市の取組のベースとなっている八戸圏域定住自立圏共生ビジョンを調査してみてもどうか。



視察報告書【2】

| | | | |
|-----------|---|-----|-------|
| 委員会名 | 都市活力向上特別委員会 | 委員名 | 太田 博康 |
| 視察日時 | 平成24年11月7日(水) 午前10時15分 ~ 午後3時00分 | | |
| 視察先・概要 | 岩手県岩手郡葛巻町 人口：約7,400人 | | |
| 視察内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森と風のがっこうについて (NPO 法人岩手子ども環境研究所) ・ クリーンエネルギーへの取組について | | |
| 選定理由 | <p>森と風のがっこうは、葛巻町の廃校を再利用したエコスクール。少子化や過疎化による学校の統廃合が全国で進んでおり、豊田市の合併地域も同様である。新たな施設を作るのではなく、かつて地域の結節点であった廃校を利用して新たな広場を作り出すことで大切なものに気づき地域が元気を取り戻すのではないかという思いで始められた。地域の食文化や昔の暮らしなどを体験できる取組がされている。廃校の活用だけにとどまらず、地域の歴史や伝統に触れ、自然との共生を学べる事業が展開されている。</p> <p>葛巻町は、エネルギー自給のまちづくりに取り組んでおり、自給率はなんと180%に達している。一見弱みと思われる山里の諸条件を強みに変えた取組をしており、特にエネルギーの地産地消の取組は参考にすべき内容と考える。</p> | | |
| 豊田市の現状と課題 | <p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し広大な面積を有する都市となったが、同時に過疎化が進む地域を多く抱え、都市活力の向上を図る上ではこの山里の活性化が早急に取り組むべき課題となっている。本特別委員会は、その一方策として、「山里とまちの交流促進による地産地消」の推進を図る施策の検討を進めている。まちの人が、山里の人と交流し絆を深めながら山里の様々な資源にふれ、理解を深めて利活用する仕組みの構築に取り組む。</p> | | |
| 視察概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森と風のがっこう 施設の経緯及び森のがっこうが目指す食とエネルギーの地産地消への取組、施設見学。 開校当時、標高約700m、近隣には12世帯の昭和の時代から何も変わっていない場所で持続可能な農業、農的な地産地消、エネルギーの地産地消を目指している。 トヨタ自動車から3年間、経費の一部と人を補助、行政からは活動を縛られたいくないので連携と支援のみであり、子どもとお年寄りが施設と地域をつないでくれた。 ・ クリーンエネルギーへの取組 新エネルギービジョンについて……自然と人間との共生を目指す取組、施設見学。 「北緯40度、ミルクとワインとクリーンエネルギーの町」を掲げ、地域活性化の手段が新エネルギーであった。 | | |
| 評価とその理由 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森と風のがっこう 昭和30年代にタイムスリップしたような施設であり、自然と共生した環境への取組は参考とはなるが真似のできるものではないと感じた。 組織の活動が理事長のバイタリティーによるところが大きいのが、その想いを若いスタッフに引継がれ育っている点を評価したい。 ・ クリーンエネルギーへの取組 地域性を生かした各種エネルギーに対しての取組姿勢を評価するが、実績を上げることは難しいと感じた。 | | |

| | |
|-------------------------------|---|
| <p>本市に反映 できること</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森と風のがっこう 今後、本市において学校規模の適正化を目指し学校の統廃合が進むであろうと予測がされるが、その時の廃校となった施設の利用方法を検討する時の参考となる活動ではないか。 同様の活動は真似することはできないが、「都会を含めた新たな人々と地域の子どもたちが共に積極的に関わることでできる仕組みを生み出してゆくこと自体が《エコマネー》《自然エネルギー》《コミュニティビジネス》《アートと身体》《新たな農のスタイル》といった人間が元気を取戻すこれからの地域実験」といった思想は参考となる。 NPO団体との関わり方を参考とすべきではないか。 各種施策を行うにあたって、行政が人を呼び寄せるのではなく、ここに来たいという思いを抱かせる受入れる仕組みを作る必要性が重要。 ・ クリーンエネルギーへの取組 葛巻町の特性にあった取組であり、本市においても豊田市の特性にあったクリーンエネルギーへの取組の重要性を感じた。 薪ストーブの積極的な利用や補助制度の導入、小水力発電の積極的な活用を進めてはどうか。 木質バイオマスに関する取組は、本市の森林施策にも反映できる点があるのではないか。 <p>どちらも、環境をテーマに観光を含めた集客を倍増させた手法は参考となる。</p> |
| <p>その他 (意見・課題 など)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森と風のがっこう 「薪と食べ物があれば戦争を起こす国にはならない」という言葉が印象に残った。 「もったいない、ありがたい」を合言葉に活動しており、スタッフがしっかりしていた点が印象的であったが、この活動を支えるスポンサーの存在が必要であると感じた。 この施設においては、設立にあたり、トヨタ自動車から「日本にないことをやってくれ」と言われ、協力があつたようであり、地元の豊田市内において子どもたちに自然環境を学習できる施設ができた時にも協力してもらいたい。 ・ クリーンエネルギーへの取組 再生エネルギーの最大の課題は採算性であり、採算性が合わなくとも、次世代への環境負荷等を考慮すると同時に、雇用に関しても貢献するであろうエネルギーの地産地消は、可能な限り取組むべきである。 本市において、エコタウンでスマートハウスが作られているが、その施設との違いを見ると、最先端技術は日々進化しておりその技術進歩がとても早いと感じ、自らに置き換えた場合、どの時点の設備を購入すべきなのか悩む。 <p>葛巻では、環境という点をテーマとしたことが功を奏していると感じたが、本市においては何がテーマとできるか。</p> |

視察報告書【3】

| | | | |
|-----------|---|-----|-------|
| 委員会名 | 都市活力向上特別委員会 | 委員名 | 太田 博康 |
| 視察日時 | 平成24年11月8日(木) 午前9時00分 ~ 午前11時00分 | | |
| 視察先・概要 | 秋田県鹿角市 人口：約35,000人 | | |
| 視察内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ合宿奨励補助事業について ・ 伝説の里かづの体験博覧会“でんぱく”について ・ 森林セラピーについて | | |
| 選定理由 | <p>スポーツ合宿は、スポーツ人口の拡大に伴い今後もその需要が高まっていくと思われる。山里の廃校を活用したスポーツ合宿への取組は、施設の有効活用、交流人口の拡大、地元農産物の消費拡大、観光地への誘客、地元の雇用創出などの可能性を秘めている。鹿角市の事業は市外の人を対象の観光的事業ではあるが、事業の仕組みや効果等を参考にしたい。</p> <p>でんぱくは、別府で始まった“おんぱく”の手法を取り入れた観光交流事業。地域の様々な職業の人が、自らが感じる地域の魅力を伝える体験プログラムを企画し、観光客などと交流する事業で地域づくりのヒントとなる。</p> <p>森林セラピーは、森林の特性を生かした事業で今の健康志向にもマッチしており交流の拡大が期待できる。また、森林セラピーガイドや森林セラピストなどの資格認定もあり、雇用の創出も期待できる。</p> | | |
| 豊田市の現状と課題 | <p>本市は、平成17年に周辺6町村と合併し広大な面積を有する都市となったが、同時に過疎化が進む地域を多く抱え、都市活力の向上を図る上ではこの山里の活性化が早急に取り組むべき課題となっている。本特別委員会は、その一方策として、「山里とまちの交流促進による地産地消」の推進を図る施策の検討を進めている。まちの人が、山里の人と交流し絆を深めながら山里の様々な資源にふれ、理解を深めて利活用する仕組みの構築に取り組む。</p> | | |
| 視察概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ合宿奨励補助事業について 概要並びに合宿の実績による経済効果、現地視察 スポーツ合宿を行う団体の増加を目的として、市内の宿泊施設を利用した場合の宿泊費の一部を助成する制度。 <ul style="list-style-type: none"> ① 対象になる合宿 スポーツトレーニングを目的とした連続して2泊3日以上で市内宿泊施設を使用する合宿 ② 対象になる団体 5名以上の団体（監督・コーチ・マネージャー等、保護者は除外） ③ 補助金の額 一般宿泊施設利用の場合は一人1,000円、鹿角トレーニングセンター利用の場合は500円。 ・ 伝説の里かづの体験博覧会“でんぱく”について 事業経緯及び目的、事業概要及び成果 鹿角市を会場とした約50の体験型プログラムを通じて「伝説の里・かづの」を体験するイベント。 魅力あふれる人・食・自然・温泉、知っているようで知らなかった「まち」を発見しようという試み。 プログラムと呼ばれる小規模の体験型イベントをたくさん集めて短い期間で開催している。 | | |

| | |
|------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> 森林セラピーについて 森林セラピー認定までの経緯及び事業概要 「森林浴」の持つ心身への癒しの効果を生理実験などを通して科学的に解明しようとした。 鹿角市の森でも森林の持つ癒し効果が科学的に実証されたことから、平成20年4月に「森林セラピー基地」として認定された。 ストレス社会と言われて久しい現代社会、メタボリックシンドロームなど健康に対する不安、現代人が抱える様々な悩みを解消できる可能性を持っている。 体験することによる心身ともにリフレッシュ。 「森林セラピー基地」は、5つのゾーンに分けられ、総延長約32kmが整備されている。 |
| <p>評価と その理由</p> | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ合宿奨励補助事業について スキーのジャンプ競技や駅伝選手の合宿等での成果を上げており、鹿角市の施設も立派であるが、人脈により事業が成果を上げていることを評価する。 関東方面にも誘致活動も行うという意気込みで22年度から23年度の比較でも増加しており、一定の実績もあり評価できる。 伝説の里かづの体験博覧会“でんぱく”について “でんぱく”は、魅力的な人たちとの出会いを目的に実施され、普段は人との出会いが少なかった人たちがガイド役となり、観光客を受け入れることで、地域の活性化及び住民の生きがいづくりにつながった点を評価する。 やる気のある職員、それを認める上司、それに応える市民の3者が適切な関係をもって事業を実施していることが評価できる。 市民が主体となって取組んでいることは大変良いことであり、その活動の中から郷土愛や人材が育まれているのではないかと評価したい。 森林セラピーについて 「森林セラピー基地」として認定されたことを受け、積極的に施設整備を行うことにより、交流人口の拡大が図られている点が評価できる。 |
| <p>本市に反映 できること</p> | <ul style="list-style-type: none"> スポーツ合宿奨励補助事業について 人口集積エリアの市民や団体を中山間地区での合宿においてこのような制度の活用ができるのではないかと考えられ、その施設において地元の人材・食などを活用し地産地消につながると考える。 市内において今後廃校を考える場合、その利活用の一つの手法として考えることができると思われる。 本市において高齢者に人気のあるマレットゴルフ人口の増加を考えると、中山間地にマレットゴルフ場を整備しその利用についてこのような事業や制度の利用が可能ではないかと考える。 補助制度のみを活用し、効果等を検証できれば有効的な制度として利用できるのではないかと考える。 本市の運動施設は既に市民が多く利用しているが、旧町村を見るとまだまだ様々な施設があるので、そのような施設を利用するためにも人口集積地の人たちがそうでない地域に移動するための仕組みを構築するべきである。 伝説の里かづの体験博覧会“でんぱく”について 本市の旧6町村には多くの観光資源があり、人と人とのふれあいを通じて高齢者の方々にとって地域活性化のためにもつながると考えられるので、検討する価値があると考えられる。 地域資源、人的資源を発掘し、ふれあい・交流を促進する一つの方法として“でんぱく”事業のような事業が考えられる。 |

| | |
|-------------------------------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 森林セラピーについて 市内には規模は小さいが似たような事業があり、様々な職種の市民が参画したり、行政だけでなく観光協会とも連携協力したりできれば市内の事業を拡大できるのではないかと考える。 昨今の健康ブームを反映した健康ウォーキングなどを取入れたような内容の事業が考えられる。 <p>鹿角市の事業は市外の人を対象の観光的な事業ではあるが、魅力ある地域資源を十分に生かすという考えから恵まれた森林等の資源を活用して心と身体の健康の維持増進を図るという独自の他地域との差別化をつけた事業の展開をしているがこういった手法は必要と考え参考とすべきである。 市民との共働の観点でのまちづくりイベント企画などが考えられる。</p> |
| <p>その他 (意見・課題 など)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・ スポーツ合宿奨励補助事業について 宿泊施設に対する補助だけで終わらないような次の一手が必要であるように感じた。 ・ 伝説の里かづの体験博覧会“でんぱく”について でんぱくを推進した若い担当者の思いを上司が受入れ、思い通りに推進させたことが成功につながったと考えられ、人のやる気ひとつでまちが変わると思われることから、本市においても大いに若い人たちの柔軟な発想で活性化策を推進して頂きたい。 <p>地産地消、交流人口の拡大を図るための取組は、最初から成果が表れるものではないので、地道に継続していくことにより徐々に広がっていくという気持ちで担当者が取組んでいると担当職員は言っていたが、経済・社会情勢が著しく変化する今の時代では即効性のある施策を講じる必要がある。</p> |

